

2019 年度事業報告書

NPO 法人市民ネットすいた

I 事業期間

2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで

II 事業の成果

当法人が目指す様々な世代や市民が自らの力で生み出す「市民自治」を前提とする社会は、人々が協働して支え合う活気ある社会で、市民一人一人が平等に社会に参加できる仕組みが必要である。それを構築するために、2015 年度から 4 つのプロジェクトを有機的につなげ、吹田市の「市民自治」の見える化に取り組んできた。

そのひとつである市民がお互いに支え合う社会の実現を目指すラコルタの管理運営の受託も 8 年となる。吹田市が 2020 年 4 月 1 日中核市になり、成熟したまちを目指して更に地域課題に取り組む市民を応援するラコルタの必要性は増している。また、吹田市制施行 80 周年事業には、当会の多くの理事が関わり、市民主体による全市的な機運の醸成を図った。

そして、2019 年度は 5 年間の中期事業方針の最終年度に当たるため、時代の変化を踏まえた新しい次期中長期戦略の検討に取り組んだ。先ず、議論の出発点として、市民社会セクターの過去・現状・未来について共通の認識を得ることと先進事例から学ぶことをねらいとして 2 回の学習会を実施した。その上で、当法人のミッションの再確認を行った。

III 事業の実施状況

1. 市民公益活動に関する情報提供・広報を支援する事業

① Web の運営 (2019 年 4 月～2020 年 3 月)

ホームページで市民公益活動を支援する団体としての基本情報を提供した。Facebook では当法人の各事業等の活動状況をリアルタイムで発信して、両者のリンクで幅広い層に対して情報提供した。

② 活動状況のお知らせの発行 (2019 年 4 月～2020 年 3 月)

当法人の活動状況を会員に伝えるため、四半期ごとにお知らせを発送した。

2. 市民公益活動団体相互および市民・事業者・行政・地域社会等との交流・連携を促進する事業

① 「復興支援すいた市民会議」の活動への参加 (2019 年 4 月～2020 年 3 月)

「復興支援すいた市民会議」は市民活動団体や個人が集り、月 1 回の定例会を開催している。

本年度は吹田市危機管理室の協力を得て、吹田に居住している東日本大震災と原発事故による避難者にアンケートを実施し、今どんな支援を必要としているか、甲状腺検査の希望有無を問い、希望する方には検査料を補助した。

例年どおり 10 月 19、20 日浜屋敷手づくり市にブースを出し、関西大学の古川ゼミと共に福島物産、会津木綿の販売とおのくんの里親探しを行い、東日本大震災を忘れずに活動していることを確認した。1 月 19 日には南千里地区公民館で芋煮会も開催し、避難者をお招きして交流をもった。

また、隔月に大阪弁護士会から送付される大阪府下の避難者支援情報を市内 11 世帯に転送した。

② 各諸団体・NPO 組織との連携(2019 年 4 月～2020 年 3 月)

本会理事が多くの自治体や団体の審議委員・評議委員として活動した。

- ・公益財団法人吹田市文化振興事業団 評議員
- ・NPO 法人吹田歴史文化のまちづくり協議会 評議委員
- ・吹田市高齢者生活支援体制整備協議会 委員
- ・吹田市行政評価委員会 委員
- ・大阪府市民活動総合支援事業業務委託先事業者審査会議 委員
- ・大阪市西淀川区における新たな地域コミュニティ支援事業 業務選定委員
- ・都島区民まつり、都島区まちづくりセンター運営事業 選定委員
- ・港区コミュニティ育成支援事業、新たな地域コミュニティ支援事業 事業者選定委員
- ・吹田市シティプロモーションアドバイザー会議 委員
- ・吹田市制施行 80 周年プロジェクト会議 委員

3. 市民公益活動拠点施設を管理運営する事業

① 吹田市立市民公益活動センターの管理運営（指定管理者）（2019 年 4 月～2020 年 3 月）

ラコルタは、市民公益活動を支援するセンターとして、吹田市内のボランティアや市民活動をしている人だけでなく多くの地域住民、行政、他市のセンターから相談受ける信頼される場となった。

また、昨年度作成した『地域自治組織運営トリセツ』をもとにして新任自治会役員を対象とした地域諸団体の運営講座を開催した。

さらに、2015 年に発行した民間同士の協働事例集「協働コラボ de ブラボ！」に続く、行政職員の協働の手引きとなる『あなたの現場が 10 倍楽しくなる公民協働術』を作成した。

② 「栄えるカフェ IN 吹田」の運営（2019 年 4 月～2020 年 3 月）

JR 吹田駅前のファミリーマート吹田栄通り商店会店 2 階のイートインスペースを市民公益活動に関わる団体が活用できるようコーディネートを継続した。団体利用登録すれば、無料で使用できる。

5 年目を迎えて初期の登録団体の多くは定期的利用がなく、現在、定期利用は 6 団体ほどである。大学生が商店街と組み「子どもの寺子屋」的な利用が単発であった。

③ 第 13 回北摂地域市民活動支援センター交流会（2020 年 1 月 17 日）

毎年、北摂 6 市および枚方市の市民活動支援センターを運営している中間支援組織が情報交換等をしている。2019 年度は池田市公益活動促進協議会が運営する『いけだ市活動交流エンジン（愛称トアエル）』が主催し、当法人から 5 名が参加した。

高槻市、箕面市、茨木市、池田市、豊中市、枚方市、吹田市の各支援センター運営団体が参加し、その他に川西市からも中間支援を目指す団体が参加し、つぎの内容であった。

- ・『いけだ市活動交流エンジン』の見学
- ・各団体の支援メニューの情報交流・事例紹介

④ 関西 NPO 支援センターネットワーク（2019 年 4 月～2020 年 3 月）

2019 年度は、「支援力を高める」をテーマに分科会を立ち上げ、年間を通じて事例研究などに参加した。

3 月 6 日に開催予定だった年次大会では、分科会の発表が行われる予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンラインで各支援センター同士の情報交換を行った。

4. 市民公益活動の促進のための社会的な環境の整備を行う事業

① 市民ファンドの事業化(2019 年 4 月～2020 年 3 月)

昨年度北摂地域市民活動支援センター交流会で提示した素案を元に、改めて市民ファンドの事業スキームを検討し、市民ファンドの基盤づくりのための「市民ファンド創造プログラム」に応募したが落選した。

そこで、補助先団体の活動に寄り添う支援体制で、補助金の原資を個人からの遺贈や寄付金だけではなく、活動を停止した団体の残余金の寄付も受け入れる案として、再度今年度の北摂地域市民活動支援センター交流会に提案した。2 月 21 日に高槻市、箕面市、茨木市、池田市、豊中市の支援センターと協働して具体的な制度検討に入った。

② 市民参加型生涯学習事業（2019 年 4 月～2020 年 3 月）

今まで市民活動に関わることが難しかった 30～40 代をターゲットとして市民参加型の新しい学びの場である「キタオオサカ大学」プロジェクトのコーディネートを継続した。

2014 年度から展開しているキタオオサカ大学のオープンカレッジは、本年度ラコルタが初めて取り組む自主事業「みんなの SUITDAY」と同時開催することで多くの市民が関わる企画とする予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。

③ 第 12 回「大阪商工信金社会貢献賞」の推薦（2019 年 4 月～2020 年 3 月）

社会貢献活動に取り組んでいる団体及びプロジェクトに贈られる「大阪商工信金社会貢献賞」の推薦団体として、3 団体を推薦した。

④ Code for SUITA(2019 年 4 月～2020 年 3 月)

他市の Code for や他団体と情報交換を行い、3 月 22 日に千里市民フォーラムとの共催でマッピングパーティーを開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。

IV 社員総会の開催

2019 年 5 月 25 日(土)、2019 年社員総会を開催し、2018 年度事業報告(案)と決算(案)、2019 年度事業計画(案)と予算(案)、役員改選について審議した結果、全て可決承認された。

出席者は、社員 47 名のうち議決権行使書か委任状提出者を含めて 29 名であった。

V 理事会運営

定例理事会をつぎのとおり開催し、事業の企画・実施体制・結果報告など PDCA サイクルを点検し、確実に事業が実施できる運営を進めた。

2019 年度 理事会

第 1 回理事会	4 月 12 日(金)
第 2 回理事会	4 月 26 日(金)
第 3 回理事会	5 月 17 日(土)
第 4 回理事会	6 月 28 日(金)
第 5 回理事会	7 月 26 日(金)
第 6 回理事会	9 月 27 日(金)
第 7 回理事会	10 月 25 日(金)
第 8 回理事会	11 月 22 日(金)
第 9 回理事会	12 月 20 日(金)
第 10 回理事会	1 月 24 日(金)
第 11 回理事会	2 月 21 日(金)
第 12 回理事会	3 月 13 日(金)